

『月の光～月～うさぎ』

—C. ドビュッシー作曲、文部省唱歌、わらべうた—

井本 英子

キーワード：ピアノソロアレンジ、『月の光』、『月』、『うさぎ』

はじめに

全国大学音楽教育学会 関西地区学会 平成 29 年度後期研究会（平成 30 年 1 月 7 日 於：三木楽器開成館 主催：全国大学音楽教育学会 関西地区学会）において、研究演奏発表を行った。フランスの作曲家ドビュッシー（Claude Achille Debussy 1862～1918）が 1890 年に作曲した『ベルガマスク組曲 第 3 曲 月の光』（Suite bergamasque 3rd Clair de lune）と日本の『月』（文部省唱歌）、『うさぎ』（わらべうた）を融合して編曲した楽曲をピアノソロ演奏で発表した。

研究発表要旨

ドビュッシー作曲の『月の光』を中心にして、月にうさぎの姿を映した日本らしいわらべ唄『うさぎ』と、「尋常小学唱歌」に半世紀近くにわたって掲載されてきた『月』を織り交ぜて編曲。『月の光』で始まりいつのまにか『月』になり、また『月の光』にもどる。次に『うさぎ』になり『月の光』に戻って終わる構成。完成されたピアノ曲を別のピアノ曲に編曲する意図は、児童や学生、広く一般の方々にクラシックのピアノ曲の演奏を楽しんで聴いて頂きたいというところにある。

音楽を聴く時、全体の雰囲気を感じその曲の気分を味わうことで幸せなひと時となる。更に音楽の諸要素を捉えて聴くことができるとその曲への理解が深まり豊かな楽しみに繋がる。例えば主題を捉えて更には対旋律との対比を味わう、様々なモチーフの使われ方やその展開の仕方を楽しむ、楽曲の構成を把握し作曲家の意図を汲み取る、和声の流れを感じ取ることにより音楽の色彩感を豊かにイメージする等、様々に散りばめられている音楽要素を発見或いは確認しながら聴くと曲への洞察が深まり、なお一層その曲への愛着や憧れを感じることができる。また、その上に演奏家それぞれの解釈を感じ取ると新たな世界が広がる。

この様ないわゆる鑑賞ポイントが明確になると音楽を捉えやすくなる。そこで原曲のイメージを損なわず楽しくわかりやすい鑑賞ポイントを挿入した編曲を試みた。この編曲のポイントは、原曲（『月の光』）の音は全く変えず、流れを止めずに 2 曲（『月』『うさぎ』）それぞれを完全に入り込ませてまた原曲に戻るという点である。諸要素の中でも比較的捉えやすいメロディ

井本：『月の光～月～うさぎ』

一に着目する聴き方を示唆。知っているメロディーを見つけながら聴くというわかりやすい指標を提示する手法を用いた。『うさぎ』も『月』もそれぞれ音域を変えてメロディーを2回繰り返す。どちらも1回目はメロディーの最初のフレーズではモチーフごとにフィルを入れて奏する。少し時間（流れ）を止めることによって「みつける」「考える」間を持たせている。またどちらも2回目は和音、和声の流れを変えて異なる色合いのメロディーにする。

この演奏から更にピアノ曲への興味が広がることに繋がっていく一助となればと思う。